F/T09 フェスティバル/トーキョー

PRESS RELEASE

# 演劇/大学09 AUTUMN 秋

12 月 1 日(火)～12 月 6 日(日)

於:東京芸術劇場 小ホール1およびシアターグリーン

演劇の未来はここから始まる―
09 春で新鮮な話題を呼んだ大学連携企画第二弾！

お問合せ:フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207
制作担当:武田知也 t-takeda@anj.or.jp、板橋園恵 s-itabashi@anj.or.jp

## 企画趣旨

### 今どきの演劇は大学から生まれる

近年、相次ぐ大学の組織改革・学部再編の流れのなかで、演技や演出・プロデュース等を教える新しい学部・学科・コースがあちこちに誕生している。またそれにともない、ここ数十年の日本の演劇界を牽引してきた重鎮から新進気鋭の若手まで、幅広い世代のアーティストやプロデューサーが教育の現場に入り、学生たちの指導にあたっている。

現在こうした大学内では、正規のカリキュラムの一環、またはそれに準ずる有志企画のかたちで、作品がつくられ始めている。大学が積極的に環境を整え、機会を与え、学生たちはその中で創作に取り組む。参加するアーティストたちも、教員であると同時に（むしろそれ以上に）実作者として、本気で作品をつくるべく学生と向き合っている。ここには、一時代前とは明らかに違うメンタリティに支えられた、新たな才能の育成、演劇の創造が行われているように思われる。

作ることと教える（教わる）こと、創作と授業、アーティストと学生のあいだに新しい線が引かれ、そこから何が生み出されようとしているのか？

「演劇/大学」では、各大学で同時多発的に起こっているこうした動向に注目し、作品創造の意志を明確に打ち出す大学と連携しながら、フェスティバルの枠組みの中で、その試みのプロセスと成果・課題を公開していく。そこには、大学教育の枠にとどまらない、未来の演劇創造を探るための新しい種子が含まれているはずだ。

## プログラムについて

### 4大学4作品の上演 ＋ 学生とOB/OG(若手演出家など)によるフォーラム

「演劇/大学 09 春」では、各大学の特色を反映した作品の上演とプロデューサー、演出家、批評家などあらゆる専門の各大学教員が集ったフォーラムを開催した。そこから各大学が取り組む人材育成および創造活動の現状と課題が明らかにされ、同時にさまざまな観点からの議論が提起された。こうした教員の側から大学の活動に焦点を当てた春のプログラムに対して「演劇/大学 09 秋」では、上演＋フォーラムの開催を通じて、各大学で学ぶ学生に注目したプログラムを展開する。

**【上演プログラム】**

**12 月 1 日(火)～12 月 6 日(日)**

桜美林大学　『カサブタ』 振付・演出:木佐貫邦子(同大学准教授)

京都造形芸術大学　『木ノ下歌舞伎—伊達娘恋緋鹿子』
作:菅専助ほか／演出:木ノ下裕一(同大学芸術研究科修士課程 2 年)

近畿大学　『腰巻お仙 -義理人情いろはにほへと篇』 作・演出:唐十郎(同大学特任教授)

多摩美術大学　『ファスナー』、『氷山のイッカク』、『健康少年』 作・演出:同大学映像演劇学科在学生

**【演劇/大学 フォーラム】**

**『演劇/大学のビフォーアフター』**

日時:12 月 6 日(日) 19:00～21:00 (二部制) ／ 会場:F/T ステーション(東京芸術劇場前)

出演:参加大学学生、卒業生の若手演劇人 ／ 司会・コーディネーター:長島確(ドラマトゥルク)

### 平成生まれも出現！ 超新世代クリエーターたちが考える「今」

**■学生同士が創作プロセスに潜入！**

創作段階において学生が稽古場を見学、取材を行う。学生が何を考え、感じながら、どのような環境で学生生活や創作活動に取り組んでいるのか、学生自身がインタビューを行い、学生の目線でその創作プロセスに迫る。

**■学生によるプレゼンテーション**

学生同士が取材した各校の創作プロセスは、フォーラムの第一部で映像を交えて紹介。上演作品が生み出された舞台裏を明らかにしながら、学生自身の言葉によって、大学と演劇創造の“現在”が語られる。

**■OB/OG のクリエーターたちも参加**

フォーラム第二部は、参加大学の卒業生を中心に、演出家、俳優、ダンサーなどとして現在活躍する若手クリエーターたちも参加。大学で演劇を学び、「今、この場、この時代に」舞台芸術と関わり続ける彼らが学生とともに、演劇創造の未来を語る。

## 桜美林大学 総合文化学群演劇コース

### 教育理念

社会に開かれたものとしての演劇を、実技と理論を通して広く学び、地域の芸術文化に貢献できる人材を育成する。俳優教育はもちろんのこと、戯曲、演出から、舞台美術、照明、音響等のスタッフワーク、企画・制作やアートマネジメントに至るまで、“演劇の力”を構成する要素を多角的、実践的に学ぶ。また理論面においても、歌舞伎から新劇までの近代劇、アングラから始まる日本現代演劇、ギリシア悲劇、シェイクスピア、イプセン、チエホフ、ベケットなど海外演劇の歴史と概要を幅広く網羅する。また、コンテンポラリーを中心としたダンスに力を入れていることも大きな特徴である。英語劇のクラスもあり、短期間の海外研修、海外演劇学校への留学も計画されている。専任教員は演出家、劇作家、プロデューサー、技術スタッフ、舞踊家、ネイティブ英語劇指導者、演劇学研究者で構成され、それ以外にも演劇・ダンス界の第一線の講師による講義が行われる。

### 授業内容 （作品創作のプロセス）

桜美林大学の演劇コースにおいて最大の特徴は年 5 回行われるOPAP（桜美林大学パフォーミングアーツプログラム）という公演形態である。さまざまな授業の集大成として、より専門的に舞台を作ることでスタッフからキャストまで演劇の全てについて経験できるものである。演出家、振付家はプロ、他は全て学生。ただしキャストは全てオーディション。一般観客の鑑賞に堪える、高いレベルの上演を目指し、毎公演、学生は試行錯誤を繰り返す。スタッフであれ、キャストであれ、プロの演劇人を目指す学生にとっては厳しくも豊かな実践の場であり、そうでない学生にとっても演劇の素晴しさや可能性を体感でき、その後の進路を考える上でも重要な場となっている。今回は圧倒的なことばで構成された戯曲世界を学生自身のことばとして成立させることを主眼とし、結果生まれた世界が多様化すべく、はばたくことを目指している。

### 上演作品 『カサブタ』

子供たちのひざっ小僧はいつだってアカチンの赤。
カサブタはもう少しで剥がれ落ちそうなのに、たいていその前に自分で
剥がしてしまう。「いらない」とはっきりと思った訳ではない。
「剥がす」というただそのことをどうしてもやってしまいたくなるのだ。
自分を守っているものを剥ぎ取りたくなる、そんな衝動。
再び、ナマ傷が現れるかも知れないというのに。

振付・演出：木佐貫邦子（きさぬき・くにこ）（桜美林大学准教授／舞踊家）
1981 年ソロダンスデビュー。本年 3 月にはソロ 21 作目『GRAYISH GRAY』（青山スパイラルホール）を発表。深さとみずみずしさに彩られたダンスを披露した。93 年よりダンスコミニュティ neo を主宰。若手の育成にも力を注ぐ。2004 年からは桜美林大学総合文化学群演劇専修でダンス教育に携わる。学生と共に創り上げる桜美林大学パフォーミング・アーツ・プログラム（OPAP）ではこれまでに 5 作品を発表した。

出演：（演劇コース在学生）
木村愛子、米田沙織、目澤芙裕子、石川あゆみ、白取麻実、今野良咲、北尾亘、久津美太地、藤井友美、水越朋、岡本優、村田茜、森本あん、早川紗代、工藤響子、大谷悠、水岡渚沙、吉田拓、槙悠吾、森山貴邦、加藤拓実、大野真由子、細野ゆりか、柴田未来、井草佑一、計良瑠衣、鷹栖歩莉、横地梢、中佐真梨香

## 京都造形芸術大学 芸術学部舞台芸術学科／大学院芸術研究科

### 教育理念

2000 年の「映像・舞台芸術学科」（学科長：太田省吾）の設立により本格的な舞台教育がスタート。現在、2007 年に誕生した「舞台芸術学科」へと移行中（現学科長は川村毅。4 回生が前者に、1・2・3回生が後者に所属）。
個々の学生が、演劇、ダンス、伝統演劇の実技からスタッフワークまで、舞台芸術全般を総合的に学ぶことを特徴とする。学部卒業後は、「大学院芸術研究科」(修士：芸術表現専攻、芸術文化研究専攻、博士：芸術専攻)に進学し、引き続き、学内の本格的な劇場施設「京都芸術劇場」を拠点としつつ、高度な専門教育を受けることができる。学内附置機関「舞台芸術研究センター」が、学部教育レベルと大学院教育レベルを繋ぐ役割を果たしている。

### 授業内容 （作品創作のプロセス）

大学院の「芸術表現専攻」では、異なる専門分野を持った芸術家志望の大学院生が、さまざまな領域を横断的に学び、幅広い知見を身に着けつつ、専門的な指導教員のもとで、各自の専攻領域を深化させていくプログラムが組まれている。修了制作にあたっては作品を創るだけでなく、その作品を創造するプロセスやテーマについて、芸術史上の先行作品研究なども含んだ「研究ノート」の提出が必須となっている。舞台芸術専攻の大学院生は、学部教育や舞台芸術研究センターの主催事業におけるプロフェショナルな創造現場とも可能な限りリンクしながら、自己の制作活動に邁進している。

### 上演作品 『木ノ下歌舞伎—伊達娘恋緋鹿子』（作：菅専助ほか）

歌舞伎や文楽で『櫓のお七』として有名な『伊達娘恋緋鹿子』（だてむすめこいのひがのこ）を、作品の歴史性を踏まえた上に、新たに現代性を加え上演する。ともすれば八百屋お七と小姓吉三郎の恋物語のみにスポットが当てられてしまう本作を、「社会／人」「体制／反体制」「生／死」という対立構造の中で翻弄される人々のドラマとして読み解き、描く。

演出：木ノ下 裕一（同大学芸術研究科修士 2 年／木ノ下歌舞伎 主宰）
小学校 3 年生の時、上方落語を聞き衝撃を受ける。同時に落語を介在に歌舞伎、文楽、能などの古典芸能への関心を広げ、後に木ノ下歌舞伎を立ち上げ、中心に古典作品上演の演出や監修を行う。08 年より、京都造形芸術大学大学院 芸術研究科 修士課程に在籍。
木ノ下歌舞伎での演出近作に 08 年 12 月『摂州合邦辻』、09 年 6 月『桂川連理柵』がある。

出演：（舞台芸術学科／大学院芸術研究科在校生および卒業生）
伊藤彩里、cossi(chikin)、濵名綾子、三鬼春奈、眞栄田貴豊、諸江翔太朗

## 近畿大学 文芸学部芸術学科舞台芸術専攻

### 教育理念

専門家の養成を目的としながらも、幅広い意味での「演劇人」を育てることを目指し、3つの＜系＞を設置。＜演技・創作系＞第一戦で活躍する教員の指導のもと、実習を中心としたカリキュラムで、演技・舞踊・演出・振付・戯曲創作・スタッフワークを学ぶ。＜ドラマコミュニケーション系＞演劇や舞踊を通じ、教育や社会に貢献できる人材を育成。舞台芸術関連科目の他に、アートセラピー、地域演劇研究なども学習。＜TOP（Theater Organization Planning）系＞舞台芸術に対して提言・発言できる人材育成のために少人数のゼミ形式による授業を実施。他専攻・他学科の講義も聴講でき、劇場や公演の制作、演劇祭の運営等の研修活動にも参加する。

### 授業内容 （作品創作のプロセス）

前回の「演劇／大学 09 春」の『少女仮面』に続き、唐十郎の初期の作品『腰巻お仙…義理人情いろはにほへと篇』を上演。出演者・スタッフは、昨年度と同様、舞台芸術専攻の通常の授業枠・学年枠を離れ、一回生～三回生、OB を含めた有志による「唐十郎演劇塾」の参加メンバー(約 30 名)で構成される。今年度も、唐十郎教授の特別講義(関連作品『アリババ』について)を受講した後、オーディションを実施。唐教授による配役後、学生主体に稽古して、唐教授の直接指導を受けている。舞台芸術学科 OB の小林徳久が演出補佐として、昨年に引き続き、稽古場を率いている。松本修准教授が演出・演技に関してのアドバイザーを、全体の監修を西堂行人教授が指導教員として担当。「唐十郎演劇塾」の第三回研究公演となる。

### 上演作品 『腰巻お仙―義理人情いろはにほへと編』

状況劇場のはじめての紅テント公演として、東京・新宿の花園神社で 1967 年 8 月に上演された伝説的作品。花園神社の総代会よりのクレームにより、上演時のタイトルは『月笛お仙……義理人情いろはにほへと篇』となった。「よくできた大衆娯楽劇の要素と唐十郎独特のモチーフとが巧みに一体化して、テント空間にふさわしい、のびやかで平明で喜劇的な活気にあふれた劇世界をつくり出している」(扇田昭彦／唐十郎全作品集解説より)。初期の唐十郎戯曲に特徴的である「胎内回帰的」でありながら「母性的なるものからのからの決別と自立」を描いた作品である。

作・演出：唐十郎（近畿大学特任教授／劇作家・演出家）
1940 年、東京都生まれ。明治大学文学部演劇科卒業。63 年に劇団状況劇場を結成。67 年に『腰巻お仙－義理人情いろはにほへと編』を紅テントで上演して以来、テント公演を中心に演劇活動を行う。現在、劇団唐組座長。劇作家、演出家、小説家、俳優として活動を続ける。『海星　河童』(78)で泉鏡花賞、『佐川君からの手紙』(83)で芥川賞、『泥人形』(03)で読売文学賞、紀伊国屋演劇賞、鶴屋南北戯曲賞を、06 年には読売演劇大賞芸術栄誉賞を受賞。97～04 年、横浜国立大学教授。05 年より近畿大学教授。現在、近畿大学国際人文科学研究所所長。

出演：近大「唐十郎演劇塾」生

## 多摩美術大学　映像演劇学科

### 教育理念

ライヴ表現としての特質を持つ演劇やダンス記録表現としての特質を持つ映画や写真。これら両領域を往還しながら、一人ひとりが独自の<表現>を探ってゆく。企画立案から、作品制作、公開発表に至る過程を繰り返し、体験を重ねる。プロデュースの力、創造の力を磨き、主体的な表現活動を継続していく人材を輩出することを願っている。＜表現＞は人間が生きる喜びそのもの。映像演劇学科のカリキュラムの核には、学生が自ら企画を提案し、創作に邁進する『表現活動（FIELD　TRIAL）』（通称　FT）がある。これを支える専門理論や歴史を学ぶ『講義学習（STUDY）』、専門技術の演習を行う『技術修得（METHOD）』等が3つの授業群としてカリキュラムを構成。演劇と映像の両領域を＜身体＞というメディアに繋いで＜表現＞を発信することを理念とする。

### 授業内容　（作品創作のプロセス）

映像演劇学科では、FT を中心に卒業制作に至る迄、作品の公開発表が4年間に6回あり、学科の活気の源となっている。1年次の必修科目『表現基礎』(FT 群の基礎課程に当たる基幹科目)では演劇と映像の両領域を基礎理論、基礎演習通じて学び、年度末課題は＜企画制作実習＞。企画立案を行い、プレゼンテーションを通じて制作チームを構成。制作された作品は学生プロデューサーチームによって運営される公開発表に参加。この＜企画制作実習＞の過程を2年次以降も重ねる。2、3年次の選択必修科目『表現Ⅰ』『表現Ⅱ』は学年ぶち抜きの合同展開。FT 群の専門課程に位置する。A/演劇、B/インスタレーション、C/映像、D/写真の4コースがあり、2年続けて同じコースを選択することも、変更することも学生の意思。年2回の公開発表と講評が行われる。

### 上演作品　学生オリジナル3本立て『ファスナー』『氷山のイッカク』『健康少年』

『ファスナー』『氷山のイッカク』は０９年度前期『表現Ⅰ／Ⅱ』A コースから生まれた作品。シラバスには「“今日”を見つめることで企画を起こし“座”を組んで創造に取り組む。“身体”と“詩”と“空間”と“時間”を感受して、新鮮な創造を生み出そう。題材を見つけ出し、実験し、作品化する。作品化の行為の中で“表現”と出会っていく。」と謳う。企画にあたっては、「上演空間は演劇スタジオ1ケ所，上演時間2時間以内。」という“条件”を提示。当初提案は8企画。プレゼンテーションの方法は、テキスト等の提示とワークショップ。「何事も多数決で決めないこと」を学生たちに求め、厳しい企画会議に。最終的に4企画をこの7月に学内で連続上演。その中からの選抜。『健康少年』はこの7月に学内で自主企画公演として初演。8月にはオープンシアターミュージアム［But-a-I］（芸劇前アトリウム広場）にて再演。授業以外でも自主企画公演が目白押し。その中から選抜しての公演となる。

『ファスナー』 作・演出：伊藤衆人 （映像演劇学科2年）
高校時代から演劇部で活躍。名前の通りサッカー少年(?)でもあり、後進の指導にも当たる。野田地図第 14 回公演『パイパー』にアンサンブルで出演。

『氷山のイッカク』 作・演出：新見聡一 （映像演劇学科3年）
演劇コースの学生代表でもあり、発表会の運営代表も務める。フリークライミングの選手としても活躍。野田地図第 14 回公演『パイパー』にアンサンブルの一員で出演。

『健康少年』 作・演出：大石貴也 （映像演劇学科2年）
某大手有名企業の IT エンジニアから演劇の世界へ転職(?)。野田地図第 14 回公演『パイパー』にアンサンブルで出演。

## クレジット

主催　フェスティバル/トーキョー
共催　東京芸術劇場（財団法人東京都歴史文化財団）
協力　桜美林大学、近畿大学、京都造形芸術大学、多摩美術大学

## プログラム概要/チケット情報

会場　東京芸術劇場小ホール1
（東京都豊島区西池袋 1-8-1　TEL：03-5391-2111）
シアターグリーン BIG TREE THEATER
（東京都豊島区南池袋 2-20-4　TEL：03-3983-0644）

公演スケジュール

| | 12/1(火) | 12/2(水) | 12/3(木) | 12/4(金) | 12/5(土) | 12/6（日） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京芸術劇場<br>小ホール1 | | 近畿<br>①19:00 | 近畿<br>②14:00 | | 桜美林<br>①18:00 | 桜美林<br>②16:00 |
| シアターグリーン | 多摩美<br>①19:00 | 多摩美<br>②14:00 | | | 京都造形<br>①15:00 | 京都造形<br>②13:00 |

## チケット情報

料金　自由席（整理番号付き）
一般・学生共通　1,000 円

前売開始　2009 年 9 月 5 日（土）

お取扱い　○F/Tチケットセンター　03-5961-5209（12:00-19:00）
※前売開始日 9/5（土）のみ 10：00 より受付
○F/Tオンラインチケット（要事前登録・無料）
http://festival-tokyo.jp/（パソコン）
http://festival-tokyo.jp/m/（携帯）　※モバイルサイトは 9 月より開設予定
○F/Tステーション（東京芸術劇場前）
※10 月後半より取扱い予定

※「演劇/大学 09 秋」は、F/T 回数券 1 演目分で全ての大学の演目をご覧いただけます。
回数券、セット券、ペア券など、F/T チケット情報詳細につきましては、F/T 全体チラシまたは F/T 全体リリース、HPをご参照ください。

## 写真/クレジット一覧

桜美林大学＜OPAP＞vol.31
『朝まだき』(08 年度)
振付・演出:木佐貫邦子　(C)福井理文

京都造形芸術大学　木ノ下歌舞伎
『桂川連理柵』(08 年度)
演出:木ノ下裕一　(C)竹崎博人

近畿大学『少女仮面』(08 年度)
作・演出:唐十郎
(C)クレジット不要

多摩美術大学『顔よ！勃ったら1M』(04 年度)
卒業制作・小指値(現在の”快快”旗揚げ公演)
作・演出:北川陽子　(C)クレジット不要